

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

畜産課長 原正三

電話番号

0852-22-5132

事務事業の名称	しまね和牛生産振興事業	
目的	(1) 対象	畜産農家
	(2) 意図	産肉能力の高い種雄牛の造成や育種価、受精卵移植等を活用した繁殖雌牛群を整備する。 また、畜産経営の規模拡大や子牛価格の安定について支援を行うとともに、しまね和牛の生産とブランド力強化の取組を行う。
事業概要	「しまね和牛」について、市場での評価を高め、ブランド確立・強化に向けての事業を行い、もって肉用牛経営の安定を図る。 ① 能力の高い種雄牛を新規造成するため、直接検定や後代検定を実施する（種雄牛造成強化対策） ② 繁殖雌牛の能力向上を図り、育種価分析を用いた肉用牛の改良を促進する（繁殖雌牛改良強化対策） ③ 子牛価格の安定について支援を行う（子牛価格安定対策） ④ しまね和牛の生産力強化や品質向上のための技術指導を行い、ブランド力の高い牛肉の安定生産を図る（生産販売強化対策）	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	県有種雄牛産子産子の県内市場占有率	目標値		35.0	36.0	38.0	40.0	%
	式・定義	県内子牛市場における県有種雄牛産子上場頭数/総上場頭数	取組目標値						
			実績値	34.0	34.0	34.3			
			達成率	-	97.2	95.3	-	-	%
2	指標名		目標値						%
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	35,662	39,606
うち一般財源 (千円)	33,991	34,765

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・肉用牛飼養農家戸数は925戸（H28:948戸）、繁殖雌牛頭数は9,370頭（H28:8,920頭）
- ・子牛の市場上場頭数は4,881頭（H28:4,930頭）
- ・県内と全国の平均子牛取引価格は去勢で794千円と815千円、雌で682千円と713千円
- ・県内子牛市場における県内種雄牛のシェアは34.3%（H27:34%）
- ・しまね和牛肉の上物率（肉質4・5率）は70%（全国平均82%）（H29.4~H29.12）
- ・第11回宮城全共の成績は目標を下回り、最高位は5区の優等賞6席にとどまった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・繁殖牛飼養頭数が2年連続で増加し、2年間で994頭増加した。
- ・県有種雄牛産子産子の県内市場占有率が、0.3ポイント改善。
- ・平成28年2月に県の基幹種雄牛に指定した「久茂福」は、その能力が全国トップクラスであることから、平成28年8月、家畜改良事業団事業団の選抜種雄牛に、平成29年3月、国の共同利用種雄牛（和牛の改良推進上重要な種雄牛）に選定
- ・県有種雄牛精液の販売本数が年々増加
H26：5,745本⇒H27：8,572本
⇒H28：11,126本、H29：12,818本
- ・しまね和牛肉上物率の上昇
H27：65%⇒H28：67.8%
⇒H29:70.1%
- ・島根県全体の上物率が増加傾向にあり、飼養管理技術の向上が図られている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・県内種雄牛産子が少なく、子牛価格は全国平均価格よりもやや低い。
- ・しまね和牛の肥育出荷成績は、上物率が依然として10%以上全国平均と開きがある。
- ・子牛価格はやや低下したものの、依然高値が続いており（生産コスト上昇）が肥育経営を圧迫
- ・「しまね和牛」が全国的に知名度のある、ブランドとなっていない。
- ・生産者組織の活動の弱体化

②困っている状況が発生している「原因」

- ・和牛生産を巡る産地間競争が激化している
- ・競争に勝ち抜ける高能力種雄牛が継続的に確保できていない
- ・繁殖雌牛の増頭、世代交代の効果がまだ発現していない
- ・高齢化により小規模繁殖農家戸数が継続して減少している
- ・県内外へのしまね和牛のPRが不足している
- ・高品質なしまね和牛肉を安定的に生産するための技術の普及が不足。

③原因を解消するための「課題」

- ・「久茂福」等に続く、全国トップクラスの肉質としまね和牛特徴（体格、繁殖性）を兼ね備えた次世代種雄牛の造成
- ・高齢（低能力）繁殖雌牛の更新と遺伝的高能力繁殖牛の増頭
- ・しまね和牛生産の新たな担い手の確保
- ・生産者組織と一体となったしまね和牛のブランド力を強化する取り組みの展開
- ・高品質な枝肉を安定生産するための技術向上対策

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ①次世代種雄牛造成の強化・スピードアップ
 - ・超優秀雌牛の受精卵を活用し、農林高校や農林大学校と連携した候補牛の効率的確保
 - ・ゲノム育種価評価を活用した選抜やとも補償制度の見直しによる効率的な種雄牛造成体制の確立
- ②繁殖雌牛の世代交代による改良促進と増頭に向けた生産基盤の強化
 - ・第12回全国和牛能力共進会（全共）への出品対策を兼ねた戦略的繁殖雌牛の整備及び国やJA等と連携した生産基盤の増強
- ③ブランド力の強化
 - ・高品質な枝肉生産に向けた技術支援及び、新たな美味しさ指標を活用した観光産業等との積極的PRの展開
 - ・第12回全共での上位入賞を目指すため、生産者組織と連携した、組の早期化及び出品対策の強化
 - ・歴史ある「しまね和牛」の特産化及び継承したくなる「しまね和牛」の魅力発掘・情報発信
- ④新たな担い手の確保
 - ・関係機関と連携した新規就農志向者への支援体制の確立・受け入れ体制の整備